

発行
長野県教職員組合
長野市旭町 1098



職場回覧

FAX号外 No. 2019-120

2020年1月17日

新たな高校入試制度 導入は2年延期！

1月16日の教育委員会定例会で、県教委の「今後の対応方針」として新たな高校入試制度の導入を2年延期し、現小学校5年生からとする案が示されました。

また、「課題の検討」をし、2020年9月に「新たな選抜制度の内容」を公表するとしています。その後、9月～11月の「説明会の実施」を踏まえ、2020年度中に「新たな選抜制度」決定とされています。※県教委発表資料は県教組HPにもアップしました。「課題の検討」のすすめ方や「説明会の実施」の仕方など具体的なことはまだ示されていません。

ねばり強い共同のとりくみによる大きな成果です！

県教組では、高教組などと連携し長野県の教育を考える会として11月県議会に対して「請願書」を提出し、「拙速に導入せず、さらに十分な検討」をするよう求めました。環境文教委員への「はがき要請」を各職場に要請したところ、多くのはがきが県下各地から投函され、委員の皆さんに届けられました。11月県議会最終日には「広く理解を得るため更なる説明を行い、スケジュールを含め丁寧に進めるべきだとの指摘があった」と環境文教委員長が報告しました。請願は「採択」ではなく「継続審査」となりましたが、実質的には請願の趣旨（拙速に導入しない）が受け入れられる結果となっています。継続したこれまでのとりくみに加え、職場からの「はがき要請」が大きな力となって県議会を動かし、大きな成果につながりました。

なぜ導入が延期されることになったの？

児童・生徒や保護者など当事者にさえ十分説明されなかったことと合わせ、この間指摘してきた制度案の問題点（「調査書」のあり方など）を認めざるを得ない状況になったためと考えられます。県議会での議員の発言などから、より慎重な対応の必要性を県教委が認めたためです。

安心して受検できる制度を求め、更なる意見反映を！

「第二次案」を基本として検討されていきますので、今まで指摘してきた問題点について、引き続き改善されるよう求めていく必要があります。

「学力検査」と「その他の検査」が全受検者に課されることになり、後期選抜でも「募集の観点」に沿った出願が求められます。新たに導入されるものに対応するためだけでも、生徒や教職員の負担はさらに増えます。「調査書」の記載内容や取り扱いの変更が検討されていることも学校生活への影響が大きく、生徒はさらに大きな不安を抱えた学校生活を強いられることになりかねません。受験産業への依存がさらに強まる恐れもあります。国連子どもの権利委員会からの勧告でも指摘されていますが、あまりにも競争的な制度は「子ども期」を歪めるものです。「公平・公正」で安心して受検できる制度とすることを求め、児童・生徒や保護者県民と共に、引き続きとりくみを強めていきましょう。

県教組教財部 南澤・山崎真

TEL : 026-235-3700 E-mail : kyouzai@ntu-net.com